

生誕450年

伊達政宗の生涯をたずねて 第3回 「政宗の家臣たち」

仙台市博物館 学芸普及室長 菅野正道



南奥羽に勢力を大きく広げる中で、軍事的貢献度はNo.1と言っても良いでしょう。

この二人については、よく政宗の側近や参謀などと評されることがあります。しかし、その考えはどうも違うようです。

片倉景綱と伊達成実
伊達政宗を支えた家臣は多士済々。政宗が全国有数の大名となったのは、政宗に実力があつたのは当然のこと、多くの家臣が政宗を支えたからに他なりません。
政宗の家臣として誰もが思い浮べるのが、片倉小十郎景綱と伊達五郎成実でしょう。
政宗より一〇歳年上の片倉景綱は、政宗幼少の時から小姓として仕え、政宗が伊達家当主となった後は、他の大名との外交担当として活躍し、対外交渉の上では政宗に次ぐNo.2の役割を果たしました。
一方の伊達成実は政宗の従弟にあたり、勇猛な武将として知られています。若き政宗が



茂庭綱元の木像(大崎市石雲寺所蔵)

それでは、政宗の側近はどんな人達だったのでしょうか？ 政宗が若い頃は、四〇〜六〇歳代のベテラン家臣が側近となっていました。

適材適所

伊達成実について興味深いのは、政宗が成実に対して出す手紙です。片倉景綱に対しては、平仮名を多用し、打ち解けた感じの手紙を書く政宗でしたが、成実に対しては、良い紙を使って丁寧な文体の手紙を書いています。それは、同年代の仲の良い親戚ではなく、礼を失ふることのできない大事な親戚という扱いで、やはり成実も政宗の側近ということでは間違いのないのです。

したが、政宗が長じるに従い、側近は逆に若い家臣へと変わっていったようです。

そうした中で、政宗の側近No.1と言えるのが茂庭石見綱元です。政宗より一八歳年上の綱元は、政宗の命を調整し、担当家臣に実行させるという役目を担っていました。綱元がこのような役割を果たしたのは、政宗が三〇〜四〇歳代の頃で、ちょうど仙台城を築き、城下町を作ったり、領地の経営を本格的に進めていた時期に当たります。仙台藩を作り上げる上で最も功績があつた政宗の家臣は、茂庭綱元と言っても過言ではないのです。

片倉景綱にしろ、茂庭綱元にしろ、政宗はそれぞれの適性を見極めて使い分けていたようです。また、元は大名だった者や家柄の古い家臣に対しては相応の待遇を与える一方で、能力のある者は低い身分でも積極的に登用し、あるいは他国からスカウトして、それぞれの適性に合った仕事や地位に就かせました。例えば、家老として藩財政を任された鈴木和泉は低い身分から抜擢された者で、北上川改修を担当した川村孫兵衛は長門国(山口県)の出身。山林育成や財政関係を担当した和田因幡は大和国(奈良県)の浪人でした。また、政宗は最大で百二十万石以上あつた領地を豊臣秀吉によって半分の六十万石に減らされますが、その際に家臣を減らすことはせず、逆につぶされた大名の家臣などを大量に新規雇用しています。戦乱が続く若い時も藩主として国づくりに励む日々も、人的資源を大事にし、適所に配することができたこと、これが政宗の大きな才能だったと言つて良さそうです。

※本稿では仙台市博物館の学術研究機関たる立場から歴史上の人物名に敬称を付しておりません。

仙台市史 資料編 伊達政宗文書2~4

※「伊達政宗文書1」は完売です。

各巻1,000点以上の伊達政宗文書を収録。別冊には、文書の写真図版や、政宗の花押・印象一覧等も掲載。

- ・「伊達政宗文書2」…政宗26〜49歳
- ・「伊達政宗文書3」…政宗50〜61歳
- ・「伊達政宗文書4」…政宗62〜70歳+補遺

A5判 各巻2冊組 価格3,810円(税別)
発売元:(株)宮城県教科書供給所 TEL:022-235-7181
県内主要書店にてお求めいただけます。
※補遺は機関誌「市史せんだい」にも掲載(続刊中)。



仙台市博物館 TEL:022-225-3074 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) ▶Twitter @sendai_shihaku

博物館は平成29年4月1日(土)から再開館いたします。

館内設備改修工事のため休館しておりますが、4月1日(土)9時から再開館いたします。

- 4月1日(土)から6月18日(日)までの常設展2017春
「生誕450年—伊達政宗文書特集 ほか」
- 4月21日(金)から6月4日(日)まで
企画展「伊達な優品勢ぞろいPartII
—この10年の新収藏品—」